

品川郷土の会 会報

令和3年(2021)6月
復刊第115号

発行人坂本道夫
編集人野口健夫

第463回例会

新型コロナの嵐はデルタ株まで変異し、収まる様子もありますが、ワクチン接種完了者は、当会でも増えてきました。

6月26日(土)13時30分から中小企業センター 中会議室で、12名が参加して、第3回緊急事態宣言延長発出により延期した第463回例会を開催しました。

先般、印刷製本が終わった「しながわ花海道周辺史跡報告書縮刷版」を回覧し、小冊子「しながわ花海道 歴史散歩」を参加者に配布しました。



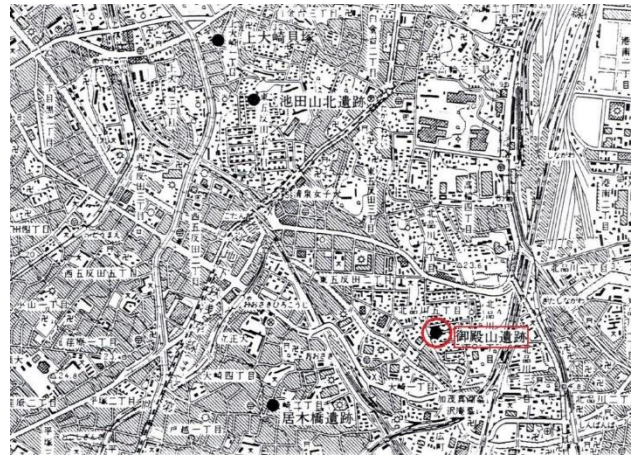
第462回例会風景

講演「御殿山史」 会長 坂本道夫

1. 縄文時代の御殿山 御殿山遺跡

御殿山遺跡は武蔵野台地の南東端高輪台、北品川4丁目から5丁目に位置する。表層

土の黒土がなく、直接関東ローム層に達する特異な地盤で、貝塚が報告されていたが、区の発掘では貝塚はなく弥生時代以降の住居遺構が確認されている。松平家7代藩主松平治郷(1751～1818年)通称、「不昧公」茶室などが造成されているので、上層土が攪乱されたのかもしれない。



御殿山遺跡



坂本会長講演風景

2. 鎌倉時代末期から室町・戦国時代の品川

品川沖に台場築造の際、御殿山を開削した時に地中から14世紀初頭から16世紀初頭に制作された、多くの板碑、五輪塔、宝篋印塔が出土した。五輪塔や宝篋印塔はバラバラで出土されるので組み合わせは想定である。出土地は海を見渡す霊地であった。出土品は法善寺で回向、保存された。

なお、品川区には個人所有だった関西系一石五輪塔が存在するが由来は不明である。

中世の品川は、品川湊として商人が活躍し寺院が続々と建立された。由緒書など存在するが、絵図や古文書は後代の誇張記述が多く不明な点も多い。

このころ存在した、太田道灌の館は、見晴らしがよく、当時隆盛を誇った妙国寺(現天妙国寺)など有徳人(豪商)の寄進した寺院群とそれほど離れていない。北品川の高台部、現ミャンマー大使館周辺に比定できるのではないか。

3. 御殿山の由来

『江戸城入場以前に「太田道灌の館」があった』と、『茶会や鷹狩などの使用した別邸「將軍の御殿」があった』の2説ある。

前説は「太田家記」、後説は「徳川実記」に記載があるが、どちらも後年の作で、創作の可能性も否定できず、歴史は時代と共に変化するので、どちらとも言い難い。

品川歴史館が所蔵する元禄期に焼失した品川御殿の絵図は古書店から購入したもので、由来で不明の点はあるが建物のある敷地形態は実態に良く合致している。

桜の名所として他地区の飛鳥山などと同時期に公園化したのは8代將軍吉宗である。

さらに、明治初年の鉄道敷設によって御

殿山は切り通し工事が行われ、大きく変貌したちである。また、その後の明治通りの開鑿なども地形を変えた地でした。



明治14年地図

(現在、保存問題で話題になっている海中に築造された高輪築堤が良く分る)

講演「高村智恵子の主治医諸岡^{もろおか たもつ}存博士」

副会長 野口 健夫

高村智恵子は、昭和10年2月末、南品川のゼームス坂病院15号室に入院し、]昭和13年粟粒(ぞくりゅう)性肺結核の症状が悪化し、同年10月5日同病院で53歳の生涯を閉じました。品川郷土の会がその地にレモン哀歌の記念碑を建立されている。

今年、智恵子抄発刊80周年で、福祉生の生地二本松市では色々な企画を行っているが、COVID-19騒ぎで盛り上がり欠けているとのことである。

以上を踏まえて、ゼームス坂病院に関連する病に因んだ高村智恵子関連のテーマを取り上げた。

講演中に講演に関連した「天保年間複製茶経」、「諸岡訳 茶経評釈」、「岡倉天心 The Book of Tea」を回覧した。

1. 諸岡 存(もろおか たもつ)博士

諸岡存は九州帝国大学医学部・精神科を卒業し、イギリスに留学しました。イギリス留学は、第一次世界大戦の関係で、日本の医学生留学先の絶対定番だったドイツに行けなかったためと言われる。イギリスで毎朝紅茶を飲んでいたことが、後に茶の研究者となったことに発展する遠因であろう。榊保三郎教授のもとで助教授をしていて、榊保三郎教授とスタイナッハの若返り法を紹介する論文などを執筆した。

この頃、日本探偵小説の魁 夢野久作の『ドグラ・マグラ』のモデルが、榊保三郎教授の研究室で助教授をしていた精神科医諸岡存で、諸岡は、1935年1月末に東京・内幸町の大阪ビル「レインボーグリル」で行われた『ドグラ・マグラ』の出版記念パーティーに、精神医学者として招待された。

その後、榊教授が退職した昭和2年、九州大学の助教授を退職し、東京へ移り駒澤大学の教授となり、高村智恵子を診察した。

東京転居後は、精神医学の研究は行わず、イギリス留学中の紅茶習慣をヒントに茶の効用を説き、東洋精神文化を論じる論客となった。中国や日本の茶業関連者には精神科医としてより茶研究者として高名で、茶を基に東洋精神文化を論じた精神医である。

2. 主治医としての諸岡

高村光太郎は 昭和10年(1935)1月8日付『中原綾子宛封書』に、

「今僅かに諸岡存博士の発熱療法といふの

にたよつてゐます、もう3回注射しました。注射すると熱が40度近く出て、其で幾分でも恢復の途につくのだといふ事です、」と記している。

また、1941年に刊行された『智恵子抄』やその後の『智恵子の半生』で、

「父死後の始末も一段落ついた頃彼女を海岸からアトリエに引きとつたが、病勢はまるで汽罐車のやうに驀進して来た。諸岡存博士の診察もうけたが、次第に狂暴の行為を始めるやうになり、自宅療養が危険なので、昭和10年2月知人の紹介で南品川のゼームス坂病院に入院、一切を院長斎藤玉男博士の懇篤な指導に拠ることにした。又仕合なことにさきに一等看護婦になつてゐた智恵子の姪のはる子さんといふ心やさしい娘さんに最後まで看護してもらふ事が出来た。」

と記している。

諸岡博士が診療した時は、智恵子の病状も相当悪かったようで、前述のように、その後、南品川のゼームス坂病院に入院した。



ゼームス坂病院(大正12年刊大井町誌広告)

3. 私と諸岡博士

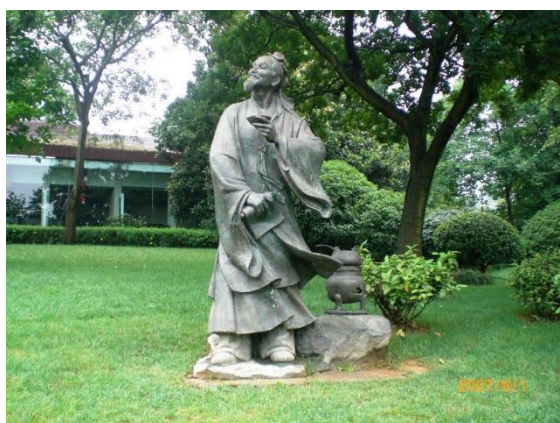
私が諸岡存博士の名を初めて知ったのは

中国駐在中の 2003 年である。当時、中国茶や茶聖・陸羽の「茶経」に熱中し、中国の中国茶関係書籍を漁っていた折、目にしたのが最初である。戦中、陸羽の生地、湖北省天門市を訪れ「茶経」を贈与されたこと、戦後、同本を天門市に返還したこと、などの話が中国の茶関連文献に記載されていた。なお、「茶経」は岡倉天心が「The Book of Tea(和名：茶の本)」を書く模範とした本である。

当会造立の高村智恵子記念碑に絡み、関連資料に目を通すと、高村智恵子のゼームス坂病院入院前の主治医は諸岡存博士であると記載されており、精神科医と茶研究家の意外な結びつきを知った訳である。



静岡県牧之原市茶博物館に展示された講師寄贈の諸岡蔵「茶経」複製と竹簡「茶経」



中国浙江省杭州市茶博物館庭の陸羽像

4. 中国茶雑録

日本茶の殆どは、煎茶でも抹茶でも緑茶

だが、中国茶は、白茶、黄茶、緑茶、青茶、紅茶、黒茶の 6 種類あり、もっとも飲用されるのは、日本同様緑茶である。

青茶の烏龍茶は、ピンクレディが減肥効果を唱えた以降爆発的にヒットし、飲料としてのペットボトルは中国へ逆輸出された。

優良品は日本茶より高価で、地域、樹木、摘み方、摘む部分、摘む時間、摘む時期、色、香り、姿、味など多様な要素で評価され…、どうでもいい中国茶の蘊蓄が披露された。



野口副会長講演風景

当会関連団体の動向

城南郷土史研究協議会打合せ

5月19日(水)午後1時半より荏原第五センター小会議室で、再出発に向け、幹事大田区郷土の会他2団体が出席し、第3回目の会合がもたれ、坂本会長、野口副会長が出席しました。規約案や名簿案が提示され討議しました。

次回9月15日までに、大田区郷土の会作成素案に沿って確定する方向で進めることになった。

しながわ花海道植栽事業

福井県坂井市の百合・球根 5,000 個植付け

鮫洲入江広場公園の西側園路横に、長さ約 150mの百合用花壇を新たに作りました。5月 29 日(土)～5 日(土) にかけて、品川区が福井県坂井市から購入した「ゆりの球根」5,000 個を、品川区役所、しながわ観光協会、近隣町会、浜川中学校ボランティア部などのご協力を得て植栽しました。2 ヶ月後には 5 色のユリが一斉に開花すると予想される。

3 月中旬には涙橋から桜橋まで 500m・5 ブロックのプランター 300 個にビオラとデイズを植栽した。

4 月末には、福島県須賀川市から購入した、聖火と金メダルを模したサルビア 9,000 本、マリーゴールド 6,000 本を勝島運河両岸上段に植え付けた。

去年は福島県長沼地区の「奇跡のアジサイ」に因み、350 名が寄付した紫陽花を植栽しています。今後は、護岸下段へコスモスの種蒔が行われる予定で、文字通り百花繚乱しながわ花海道の様相を呈する。



なお、以前紹介した周辺歴史散歩ガイドは印刷製本を完了し、観光情報センターほかで無償配布中である。

地元や郷土史に関連する新刊図書を紹介いたします。興味のある方は、書店等で購入するか、近くの図書館で閲覧下さい。なお、区内図書館は事前に COVID19 での閲覧制限を確認の上お出かけください。

1. 古写真を見て歩く 江戸・東京 歴史探訪ガイド 改訂版

国立国会図書館をはじめとする博物館・図書館所蔵の貴重な古写真を公開しています。2012 年発刊本の改訂版です。「過去の町並み」を切り取って現代に伝える写真の数々を「今の町並み」と並べて比べながら歩けます。本書では幕末から明治期の東京を写した写真を紹介し、その撮影場所と同様のアングルから撮影した現代写真も掲載しています。二枚の写真を比較すれば、東京の姿が大きく変貌していることが分かります。空が広く、水路がめぐり、緑にあふれた江戸の記憶を受け継ぐ明治の東京。それから百年以上経た今、時を超え、空間を超えた、品川宿、潮干狩り、鈴ヶ森が掲載されています。



著者：「江戸楽」編集部
出版社：メイツ出版
判型：A5判
頁数：128頁
価格：1793円(税込)
初版：2021年04月20日
ISBN-13：978-4780424560

2. 花街の引力

～東京の三業地、赤線跡を歩く～

花街、三業地、遊廓、岡場所、赤線地帯、カフェ街…など「街歩きの達人」が読み解く。全盛期、昭和時代の花街地図が付いていて資料的価値がある。かつての花街、三業地、赤線、闇市、横丁の類いは、今後も消滅していくが、それらの場所を今のうちに訪ね歩いて最後の記録をすることが重要で、それは、近代日本の産業、軍国主義、敗戦、占領、貧困、女性の歴史を記憶することにもつながるといのが著者の隠れた意図である。

「夜の街」の残り火を灯す43の街の物語には、地元・近隣の森ヶ崎、穴守、大井、大森、品川、五反田が取り上げられている。

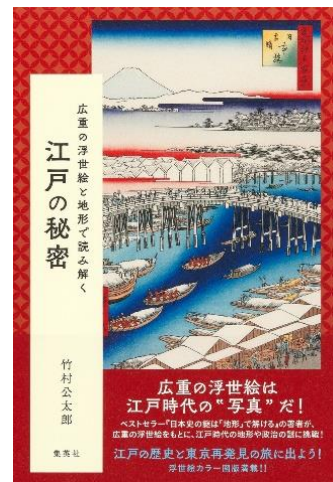


著者 三浦 展
出版社 清談社 Publico
価格 2200円(税込)
頁数 352頁
発売日 2021年4月26日
判型 46版
ISBN 9784909979162

3. 広重の浮世絵と地形で読み解く

江戸の秘密

広重の浮世絵は、江戸時代の風景写真といえる。広重の浮世絵を愛好する著者が、発想を転換して浮世絵を眺め…驚くべき事実が浮世絵に書き込まれていることを発見し、専門である土木や治水の知識を合わせて考えると、江戸の地形や歴史の謎を解く。第16章、近代化の象徴、鉄道開通と住民運動の始まりに品川を走る汽車の浮世絵が出ている。



著者 竹村 公太郎
出版社 集英社
価格 2530円(税込)
頁数 272頁
発売日 2021年4月26日
判型 46版変形
ISBN：978-4-08-781700-3

4. 地図で読み解く東急沿線

貴重な地図資料や写真から東急 100 年の歴史を明らかにしつつ、沿線の謎と不思議について深く知ることができる一冊。田園都市線の起点駅だった高度経済成長期の大井町駅、駅名と地名が短期間で変更 下神明と戸越公園の歴史、中延駅から 1 キロの範囲に 5 つもの鉄道路線が集中、大井町線と池上線の駅が統合し誕生した旗の台駅…などが記載されている。



監修者：岡田直（横浜都市発展記念館）
出版社：三才ブックス
判型：A5 判
頁数：160 頁
定価：1870 円(税込)
初版：2009 年 4 月 3 日
ISBN：978-4-86673-244-2

5. 鉄道と政治

鉄道は、地方に近代化をもたらしてくれるものだった。「我田引鉄」と呼ばれよう

とも、政治家は血眼になって自らの票田に鉄道を引き込んだ。不自然な路線や駅の配置が各地に見られるのはその結果でもある。鉄道を国に強請る時代は終わり、国と地方との関係が変わった今、リニア、都市交通などの整備はどうあるべきか。明治以来の政治家・政党と交通政策の変遷を概説し、これからを展望する著作。東急や京急の話も私鉄関連で取り上げている。

著者：佐藤信之
出版社：中央公論新社
判型：新書判
頁数：320 頁
定価：1034 円(税込)
初版：2021 年 4 月 20 日
ISBN：978-4-12-102640-8



地方が国に陳情した時代から、
地方と国が対峙する時代へ。

リニア、
九州新幹線……
なぜ迷走するのか

コソコソと 58 年
1億部
突破

中公新書 2640 定価1034円(10%税込)

6. 日本の地名 附：日本地名辞典

地名には歴史的・文化的に貴重な価値が含まれている。日本の地名はバリエーション

ンも多く、その起源についてもさまざまなものがある。地名の成り立ちや命名の仕方について研究する地名学は、柳田國男も取り組んでいた。もともとは地理学との関係が深いが、歴史学、民俗学、言語学などのアプローチが必要でもある。

地名は発生した後に、その伝播のしかたにも特徴がある。もともとの地名が伝わっていくときに、扇状に伝わるということがある。地名を研究することで、隠された歴史の痕跡を読み取ることが可能となる。

「文化化石」としての地名を研究する学問として、「地名学」を提唱した著者が、その集大成として刊行されたのが本書である。

また、本書巻末には約 1300 項目の「日本地名小辞典」が付いている。「品」についての記述もある。身近な地名の謎に迫るための好著で、歴史学・民俗学の補助としても役に立つ一冊であろう。



著 者： 鏡味 完二
出版社：講談社
判 型：文庫版
頁 数：241 頁
定 価：1100 円(税込)
初 版：2021 年 5 月 11 日
ISBN：978-4-06-523127-2

当会ほか関連行事について

当会 第 464 回例会のお知らせ

第 464 回例会は連休中ですが、下記日程で予定しています。詳細内容・出欠確認は、追って往復はがきで、ご案内いたします。

日 時：7 月 24 日(土) 13 時 30 分-
場 所：中小企業センター 中会議室
講演者：未定
演 題：未定
参加費：500 円

(復刊 115 号おわり)

品川郷土の会や本誌についてのお問合せは、
〒140 - 0001 品川区北品川 3-6-13-503
携帯電話 080-5497-4633 坂本まで
会長 坂本 道夫

※活動の詳細は「しながわ すまいる ネット」をご覧ください。